

[宛先]環境省自然環境局野生生物課外来生物対策室 あて

[件名]第一種使用規程(9月18日スギ分)

[氏名] 市川まりこ(食のコミュニケーション円卓会議)

[意見]

1. 生物多様性影響に対する対応について

無花粉スギの野外試験で問題となるのは、これまで花粉が形成されていない遺伝子組換えスギを野外で栽培した際に花粉が形成されて遺伝子拡散することですが、そのような不測の事態が発生した際の緊急措置計画が設定されており、十分に生物多様性への悪影響を防ぐことが出来ると思います。

2. 生物多様性影響評価書の交雑性について

生物多様性影響評価の交雑性に関して、「スギ天然林は、現在は山奥に小面積しか残っておらず(津村, 2006)」とあり、日本国内には本組換えスギにより生物多様性上影響を受ける野生種があると示されていますが、隔離ほ場周辺にはスギの天然林は存在しないと考えられること、雄性不稔スギであること、および花粉を形成するなど不測の事態が発生した際の緊急措置が講じられることから、試験を実施することで生物多様性影響を生じないと考えます。

3. その他

スギ花粉症は 3,000 万人以上の国民が苦しんでいる所謂国民病であり、その対策として無花粉スギが開発されたことは、素晴らしいことと考えます。速やかな第一種使用の承認と、実用化を目指した研究推進をお願いします。